

真宗大谷派 草加松原開教所 浄心寺 寺報

もととみち

第4号

▼あの日より

山の方では紅葉もはじまり朝晩の冷え込みが冬らしくなってきました。あの日から8カ月を迎える被災地はどれだけ復興したでしょうか。がれきの撤去は進まず、やっと入れた仮設ではDVやアル中・自殺者を生み、放射能に汚染された我が家へは戻れるメドが示されず、明るい兆し乏しく、やり切れない気持ちのなかで、また冬を迎えます。



心のケアボランティアの道中で

いくつもの仮設住宅で見たのは、心の平穏が得られずに苦しんでいることを、声をあげて訴えられない弱者の姿でした。今はものではなく心のケアが急務だと思いました。震災と人災 わたしたちの知恵は便利な生活をもたらしてくれました。しかしどこかで、便利な生活と引き替えに、実は安全を手放していたのではないのでしょうか。あるいは、安全だという言葉に寄りかかって「絶対」という事はあり得ないという現実から目をそらしてしまっていたのではないのでしょうか。仏教の教えに「諸行無常」というものがあります。全ての作られたもの(物質はもちろん考えもそうです)に、永久に変わらないものはない、と言う考え方です。原発の安全性も、津波さえ来なければ

安全だったのかもしれない。しかし、津波は来襲し、原発は放射能をまき散らしております。安全とは言いますが、絶対に永久に安全と言う事ではないと、私たちに認識させました。とはいえ、諸行無常であるからこそ、今の苦しい状態がいつまでも続くわけでは無いとも言えます。必ず明るい日がやってきます。その日が来るまで一歩ずつ前を向いて歩んでいく事、一人ひとりが関心を持ち続けることが大切な事なのではないのでしょうか。



浄心寺にてお盆法要

▼お盆法要厳修

8/6(土)

はじめてのお盆法要でしたが二十八名ものご参加

をいただきました。今年は七月盆と八月盆の真ん中で法要を開きましたが中途半端な日程にもかかわらず、たくさんのご参加をいただきました。皆さまと一緒にお念仏をして、一通りの読経のあと、私の雅楽の先生でもある本願寺派の布教師、七里順量師にご法話をいただきました。お盆の由来や仏様のご利益など大変わかりやすい言葉で、笑いを交えながら楽しく聞かせていただいたことでした。法要を終えてのお茶会では、参加者より美味しい甘納豆をご馳走になりながら、楽しい時間を過ごさせていただきました。全席イス席にしたこととは思っていた以上に好評でしたので今後も続けようと思えます。お暑い中をお参り下さり本当に有難うございました。



今後の予定

浄心寺報恩講 2011
12/11(日) pm 1時

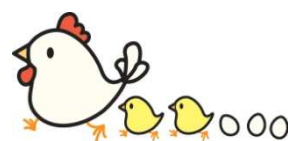
報恩講は私たち浄土真宗の門徒(信徒)にとって、一年中でもっとも大切で、親しみ深い行事です。蓮如上人は『お文』の中で、「報恩講には、みなさんそれぞれが、親鸞聖人の御影の前で、普段の愚かな行いを悔い改め、自分自身を見つめ直して下さい。それこそが、報恩講の本当の意味であり、すなわち聖人のご恩に報ずるということなのです」と、仰いました。普段は愚痴ばかり出る愚かな私が、まさに救われていく身であったことを気付き、慶びの中にお念仏を申す身にさせていただくのが、報恩講のご法縁なのです。勤行の後の法話では僧侶で「笑い療法士」の資格を持つ評判の先生をお招きし、歌あり笑いありの楽しいひと時をお過ごしただけです。みなさまのご参加をお待ち申し上げます。



金子みすゞ

泥のなかから 蓮が咲く。
 それをするのは 蓮じゃない。
 卵のなかから 鶏が出る。
 それをするのは 鶏じゃない。
 それに私は 気がついた。
 それも私の せいじゃない。

蓮と鶏



その他

● 1/3(火) pm 2時

「修正会」(元旦法要)

年最初の過ごし方は地域や宗派によって様々ですが真宗門徒であるなら阿弥陀如来の御前でお参りさせて頂くことを一年のスタートにするべきです。とはいえ浄心寺には屋台などの初詣の楽しみはありませんし先祖の眠るお墓も無いです。よね。ですから一通り済ませた頃合いにお越し下さい(笑)。浄土真宗は欲望を叶えるための神仏への祈りを知りません。年始めから一人ひとりがバラバラで願い事をするのではなく、ご家族さま一緒に大切な亡き方々を偲びつつも仏様の「み教え」に耳を傾けることを願って法座を開きます。読経と法話の後はお茶会になります。

トピックス

◆看板新設

正面玄関の脇に分厚い手彫り看板を取り付けました。大きな「浄心寺」を

前にお寺らしさが一つ増えた喜びを感じました。

◆災害義援金

秋の彼岸読経でお預かりしましたお布施は日本赤十字社・中央共同募金会・その他NPOに全て寄付しました。

御寄進御礼

御供 七条袈裟一領

足立区 桜井照子様

僧侶の身につけるものには厳しい定めがあります。数珠や扇子・履物に至るまで細かく決められています。一般に広く知られているのはやはり袈裟だと思えます。普段使いの輪袈裟や年忌法要に用いる五条袈裟など法要の格式に応じて何種類もあるのですが、当派最上位の衣が七条袈裟です。「大げさ」の例え通り体をすっぽり包み込む大きさを龍や鶴、浄土の花などを刺繍であしらったものが多くとても華やかです。特別な法要の際に使用しますが葬儀に使用することもあります。伽藍建物の落慶の際に

も使われるので非常におめでたい袈裟でもありません。大変高価なこともありこれまで所有しておりませんでした。寄進者のお志に深く感謝しつつ大切に使用させていただきます。有難うございました。

編集後記



お腹の赤ちゃんの子。外からでも分るほど毎日元気に動いています。早いうちから名前を決めて夫婦で語りかけ呼びかけ続け励ましてきました。すでに臨月に入りました。実家に帰った妻からの今日の検診の報告を待ちつつ今号を書いていきます。四十数年前の父もこのように思いであったかと、若い父を想像しながら改めて親への感謝を思うのでした。(来月の報恩講が披露の場になる予定です。)生まれたことを後悔させまいと遅ればせながら親の責任が芽生え始めた今日この頃。

お父さん頑張るからね。 住職

浄心寺

阿弥陀山

T 340-0011

埼玉県草加市栄町三九一三六

0048(951)7367

http://yosinji.web.fc2.com